

磯子区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	磯子区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和2年度から6年度まで(5か年)
事業の実施者	社会福祉法人 青い鳥
	磯子区子ども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和6年6月から8月まで
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p>
	<p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	【振り返り作業からの課題】 ①利用者同士の交流が生まれるような仕組みづくりの検討 ②利用者同士で課題解決していくことができるよう、ママズトークの回数や内容の検討をする。 ③拠点利用者数が少ない地域に出向き、ニーズ把握をし、拠点事業として展開を検討する。 ④若年層の養育者など、少数派の利用者のニーズを吸い上げ、今後の支援につなげることができるよう検討する。 ⑤拠点ひろばスタッフが子ども同士の関わりや親子での遊びを広げる視点をもって関わる。 【有識者からの追加の提言】 ①子どもが楽しめる、成長するような、魅力的な居場所づくりを検討していく ②子どもの発達に悩む保護者のため、専門職による早期の支援の検討 ③虐待防止の観点から出産前からの支援として、拠点ならではのプログラムを検討する ④アンケートの分析が不十分であったため、アンケートを実施し、課題やニーズを把握していく。	A	B
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

拠点利用状況

利用者数	H30年度	R5年度
総合計(人)	23,910	17,211
1日平均(人)	99	71
新規(組)	938	978

子どもとの続柄	H30年度	R5年度
母親	10,416人	7,260人
父親	621人	856人
祖父母	349人	126人
ブレママ	110人	170人
ブレパパ	5人	131人
その他	322人	90人
計	11,823人	8,633人

多様な養育者向けイベント

対象	イベント	H30年度(回数)	R5年度(回数)
父親	パパとベビーマッサージ	38組 112人(4回)	27組 72人(4回)
	パパと一緒におはなし会	28組 74人(2回)	26組 61人(3回)
	パパと遊ぼう@いそピヨ	15組 46人(1回)	8組 23人(1回)
	パパと体操		10組 23人(1回)
妊娠期	マタニティ・ヨガ	156人(12回)	61人(12回)
	マタニティさんのための安産カフェ	161人(12回)	56人(12回)
	いそピヨたまごクラス		130組 257人(20回)
多言語・多文化	国際ママ・パパ会(H30)	34組 89人(5回)	
	親子で楽しむ国際交流(R5)		21組 42人(2回)
発達	いぶきっず@いそピヨ		19組 39人(4回)
双子・三つ子の親子	双子ちゃん三つ子ちゃんの会	17組 56人(4回)	28組 96人(5回)
きょうだい育児の親子	きょうだい児あつまれ!	5組 16人(1回)	3組 7人(1回)
障がい児	ダウン症赤ちゃん会		3組6人(1回)
高齢出産	アラフォーママの会	79組 158人(5回)	39組 77人(6回)
若年出産	プチママの会	4組 8人(1回)	13組 26人(3回)
新規転入者	あつまれ!ニューフェイス	22組 48人(2回)	14組 30人(3回)
ひとり親	ひとり親サロン@いそピヨ	2組 5人(1回)	
あかちゃんと養育者	あかちゃんタイム(6か月まで)		114組 233人(12回)
	ベビーマッサージ(2~9か月)	76組 152人(8回)	71組 147人(8回)

令和5年度磯子区子育てニーズ調査

子育て中に知りたい情報(複数回答)	
1位 しかり方・しつけ方・かかわり方	42.1%
2位 子どもの発達・発達	29.9%
3位 子どもと一緒に外出先	27.8%
4位 子どもと一緒にイベント	26.0%
5位 子どもの病気や健康	25.5%
6位 事故予防、急病時の対応	24.6%

1. 利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。

- 対象年齢の幅を広げた玩具や書籍の新たな購入やマットの配置変更等、拠点ひろばの環境を見直し居心地良く楽しんで過ごせるよう工夫した。また、拠点ひろばの飾り付けや持ち帰り用として地域のボランティアから折り紙作品を提供していただき、場の雰囲気作りをしている。
- 拠点ひろばで自由にやり取りできるリサイクル品(子ども服等)の設置や、玩具、育児用品のリサイクル写真の掲示をしている。リサイクル品のやり取りから交流が生まれている。
- 初来所の利用者には特に丁寧な対応を心がけ、他の利用者とのつながりの声かけや、地域にもつながれるよう近隣の子育て情報を提供している。
- 地区別に名札の色分けをし、居住地が近い方同士の交流につなげている。
- コロナ禍での感染対策や利用状況を、いそピヨホームページやインスタグラムで発信した。感染症対策として、玩具を消毒できるものだけに制限したり、予約の際の体調確認を徹底し、安心して過ごせる場となるよう配慮した。緩和後も入館時の体調確認や手洗いの声かけは継続している。
- 子育てサポートシステムの預かりを拠点ひろばで行うことで、利用者と提供会員との自然な交流が生まれている。活動を身近に見ることで安心した預かりの利用にもつながっている。
- 区の手形足形アルバム事業を実施することで、出産後はじめての利用のきっかけとなった。(令和5年度64人来所)
- 季節ごとのイベントやお誕生日のフォトパネルを設置し、随時撮影している。誕生日には手形スタンプとメダルなどでお祝いしている。

2. 多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。

○地域ケアプラザと共催で拠点から遠い地域で「ちびっこ広場」を定期開催（毎月）することで、交流や情報提供の場となっている。
 ○幼稚園、保育園、関係機関と協力し、各地域で既存の園庭開放や公園を利用したプログラムを開催した。園舎内の見学や園児とのふれあい遊びもあり、近隣の親子にとって良い機会となった。
 ○母子保健コーディネーターとともに「プレパパ・プレママの会」を開催し、妊娠期からの支援を強化した。また、同時開催の「あかちゃんタイム」で赤ちゃんに触れあい、先輩ママ・パパとの会話で子育てのイメージを得る場となった。（令和3年度まで）
 ○妊娠期向けのイベント「いそピヨたまごクラス」（令和4年度「プレパパ・プレママの会」から名称変更）を土曜日開催にしたことで、就業中の方や父親の参加が増加した。イベントへの参加者増加とともに出産後、低月齢からのひろば利用も増加した。
 ○磯子区基幹相談支援センターいびぎで定期開催している、発達に不安を抱える親子のためのひろば「いびぎっす」を拠点ひろばで開催した。拠点の休館日に開催することで参加しやすくなり、受け入れ人数を拡大できたことで多くの参加につながった。養育者同士が交流しやすいよう拠点スタッフの配置を手厚くし、令和4年度から回数を増やして開催した。令和5年度から「いびぎっす@いそピヨ」で南部地域療育センターの講座を開催したことで、より専門的な相談ができた。

○共通するテーマをもつ養育者同士が交流し（ママズトーク）、気持ちの共有や課題を話し合える場となっている。

- ・「あつまれ！ニューフェイス」新規転入者のための情報交換や友達づくりの場。地域の先輩ママがボランティアとして参加。
- ・「アラフォーママの会」40歳前後の養育者のための情報交換と交流の場。いそピヨ応援隊の子どもの見守りのもと、横浜市スポーツ協会の講師によるストレッチを開催。
- ・「プチママの会」若年層（25歳前）の養育者のための情報交換と交流の場。
- ・「あかちゃんタイム」生後6か月までの赤ちゃんとその養育者のための情報交換と交流の場。拠点スタッフによるわらべ歌や手あそび、絵本の読み聞かせを実施。
- ・「きょうだい児あつまれ！」第2子以降のきょうだい児育児をされている養育者のための情報交換と交流の場。
- ・「マタニティさんのための安産カフェ」妊娠期の気持ちの共有や情報交換、交流のための場。
- ・多胎児向け「双子ちゃん三つ子ちゃんの会」を追加開催（平日・午後）したことで養育者のニーズを知ることにつながり、次年度のプログラムの検討につながった。
- ・「ダウン症児の保護者会」に参加しやすいよういそピヨの休館日に、あかちゃん会を平日に開催したことでその後のひろば利用につながった。

○父親向け「パパと一緒にベビーマッサージ」や「パパと一緒におはなし会」「パパと遊ぼう@いそピヨ」「パパ講座」を開催し、父親が気軽に参加できる場を設けたことで、交流のきっかけ作りや父子での利用につながった。

○「背守りづくり@いそピヨ」を開催、背守りを作成しながら多世代のボランティアと参加者との気軽な交流の場となった。作成した背守りは次年度「いそピヨたまごクラス」で参加者に配布予定。

○地域のママボランティアの協力を得て、外国籍の養育者向け「親子で楽しむ国際交流@いそピヨ」を開催した。令和5年度からいそご多文化共生ラウンジと協力開催することで外国籍の方との会話等、対応がスムーズになり内容が充実した。

○まん延防止等重点措置期間中に、妊娠期から産後の外出が難しい方向けのオンライン事業「マタニティさんのためのリモート安産カフェ」「オンラインベビの会」を開催した。

○多世代交流のために子育て支援講座「孫育て・たまご（他孫）育て」「地域とともにくむ」を開催した。現役世代から祖父母世代までが参加し、講師による子育ての現状のお話と工作を楽しみながらの交流会で、幅広い世代がつながりを持てる場となった。

○講座「就職支援セミナー」「保育教育コンシェルジュ相談」を多様な参加方法で実施したことで、外出することが難しい方の参加につながった。（オンライン、ハイブリット型）

3. 養育者と子どものニーズ把握の場になっている。

○ひろばで接した養育者との会話や相談から子育てのニーズを把握し、定例連絡会（毎月）で区と共有している。

○妊娠期登録者を集計し、そこから出産後の利用につながった方の割合を調べた。妊娠期事業から子育て期の拠点ひろば利用へのつながりを確認することができた。

○幼稚園児の養育者に園の現状のアンケートをひろばで取っている。（幼稚園情報ファイル）幼稚園選びをする親子への情報ツールとして活用している。

○幼稚園の先生による講座「おしえて！幼稚園のこと」を開催するにあたり、未就園児の養育者に幼稚園について聞きたいことのアンケートを実施しプログラムの中に反映した。また、その他のイベント後にもアンケートを実施し、把握したニーズをその後の事業の運営やプログラムに反映している。

○拠点ひろば、乳幼児健診、保育園、親と子のつどいの広場でニーズ把握のための拠点アンケート（令和3年度）や磯子区子育てニーズ調査（令和5年度）を実施した。拠点の利用者の状況やニーズを把握することで、ひろば内の情報整理、発信やプログラムの検討につながった。

4. 親（養育者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。

○令和5年度磯子区子育てニーズ調査を実施した結果、子どもとの関わり方（しかり方、しつけ方等）に悩む方の増加があった。養育者が子どもとの関わり方を学べるよう区とともに講座「CAREプログラム」を開催した。

○磯子消防署の職員による子どもの発熱や怪我等、急な病気で困った時の対応の仕方を学ぶ講座を開催している。

○スタッフが子どもとの関わり方の講座や、区の保育士研修を受講しスキルアップをはかっている。わらべうたやからだ遊び、手遊び、絵本の読み聞かせ等、スキルを活かして養育者に伝えている。

- ・「あかちゃんタイム」「双子ちゃん三つ子ちゃんの会」「プチママの会」「あつまれニューフェイス」

○「パパを楽しもう@いそピヨ」など、子どもとの関わり方や遊び方を学ぶ父親向けの講座を開催している。

○先輩ママにボランティアとして子育てのアドバイスや地域情報を伝えてもらっている。

- ・「いそピヨたまごクラス（プレパパ・プレママの会）」「あつまれニューフェイス」「背守りづくり@いそピヨ」「いびぎっす@いそピヨ」

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①②④】

・ダウン症児や双子などの多胎児の出生状況、外国籍児童の増加など、拠点と区内の情報を共有し、通常の広場に参加しづらく配慮が必要な方向けの交流会の必要性を伝え、新たな交流会の企画や既存事業の実施日時の見直しなどを拠点と一緒に検討した。発達に不安のある方の集まりについては、区で把握している発達障害の疑いのある方に情報提供をした。

【目指す拠点の姿③】

・令和5年度に横浜市立大学と協働し、育児ストレスや孤立感に着眼した「磯子区子育てニーズ調査」を拠点と共に実施し、その結果を分析することで区民のニーズをより細かく把握することができた。

【目指す拠点の姿②④】

・土曜日開催の出産育児教室「いそピヨたまごクラス」について、母子健康手帳交付時や両親教室等で積極的に周知を行ったことで、参加者を増やし、プレパパの拠点来所者数も著しく増加した。妊娠中から拠点の事業に参加することが、出産後に、早期のひろば利用につながることを考慮し、拠点の強みを生かした内容や講師の検討を共に行った。

【目指す拠点の姿④】

・CAREプログラムの支援者向け講座に拠点スタッフが参加したうえで、養育者向け講座を共同開催することで、子どもとの関わり方に悩む養育者に講座を案内したり、拠点ひろばに遊びに来ている親子に具体的な関わり方の助言を行っていただけようになった。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

・「磯子区子育てニーズ調査」の結果から、共働き世帯、男性の育児休業取得の増加を踏まえ、出産育児教室「いそピヨたまごクラス」の内容の検討、男性向けのイベントの開催につながった。

・子育て中に知りたい情報として「子どものしかり方・しつけ方・かかわり方」が男女共に一番多かったことを踏まえ、子どもとの関わりに悩む養育者向けにCARE講座を養育者が参加しやすい拠点で開催し、区民のニーズに応える体制構築に努めた。

・妊娠期からの「いそピヨたまごクラス」を、実技や体験などを主にした内容に見直し開催することで、プレママパパの参加者数が増加し、さらに、出産後も低月齢からのひろばの利用や父子での参加が増え、ひろば利用者数の増加につなげることができた。

・衛生面に配慮することはもとより、おもちゃやレイアウトを工夫し、誰もが安心して過ごしやすい環境づくりに取り組み、利用者数の増加につなげることができた。

・先天性疾患や発達に悩む親子、外国籍の親子に対して他機関と協働して事業を開催することで、拠点を活用して、養育者同士がつながる機会を提供した。

【課題】

・利用者数の地域差が明らかになっている。拠点に来づらいエリアの利用者が少ないため、出張ひろばの開催や、他機関と連携した身近な場所での居場所づくりの検討が必要である。

・共働き世帯の増加から、父親が参加しやすい日程での講座の開催や体験型のイベントの検討、男性でも参加しやすい雰囲気づくりが求められている。

・外国籍の親子が増加しているため、外国人親子のニーズを把握していく必要がある。

振り返りの視点

ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。

イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。

ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。

エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。

オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。

キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。

ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	【振り返り作業での課題】 ①相談内容の振り返りを行い、個別から集団を対象とした相談への事業展開を検討する。 ②法人の特色を活かした事業展開を検討する。(児童精神科医による講座など) ③相談対応に活かせるように、年齢・対象別の情報整理と情報更新を行う。(妊娠期から就学前まで) 【有識者からの追加の提言】 ①ひろば相談の傾向を分析し、対応を検討していく。 ②スタッフ全体のスキルアップを図っていく取り組みを継続していく。	A	B
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

相談件数			相談内訳		専門家による相談	
	H30年度	R5年度	R5年度		相談(集団)	R5年度
ひろば相談	3,810件	2,911件	1位 親自身	998件 (29%)		イベント
個別相談	545件	568件	2位 制度サービス	837件 (24%)	歯みがきの始めかた	68組 145人 (6回)
合計	4,355件	3,479件	3位 子どもの生活	527件 (18%)	はじめての離乳食教室	19組 50人 (2回)
			4位 地域情報	325件 (9%)	ぼうさいイロハ講座	12人 (1回)
			5位 子どもの発育	285件 (8%)	小児救急法	(対面) 11人 (1回) (オンライン) 10人 (1回)
			6位 就園就学	208件 (6%)	保育サービスに関するお話 ハイブリッド形式	4人 (1回)
			7位 子どもの健康	177件 (5%)	オンライン就職支援セミナー	29組66人
					おしえて！幼稚園のこと (R5年開始)	56人 (12回)
					助産師相談	55人 (12回)
					栄養相談	11人 (4回)
					保育・教育 コンシェルジュ	5人 (2回)
					おしごと出張相談(R5年開始)	10人 (9回)
					児童精神科医による相談 「子育てママのモヤモヤを吹き飛ばそう」	

- スタッフの研修への参加 (R5年度)
 - ・磯子区子育て講演会「CAREプログラム」
 - ・CAREプログラムスキルトレーニング講座
 - ・勉強会「発達に気になる子どもと保護者を地域で見守る・支えるために」
 - ・磯子区社会福祉大会講演会「知る。～身近な障害のある人の暮らし」
 - ・包括的性教育
 - ・使ってみよう「やさしい日本語」
 - ・磯子区児童虐待防止講演会
- 見学・訪問先
 - ・その他法人や区の研修にも参加。
 - ・あかちゃん教室・親と子のつどいのひろば・子育て支援者会場・地域ケアプラザ等のサロン等

1. 養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。

○養育者の相談傾向に応じた対応

- ・子供の「生活」・「健康」・「発育」など子どもの心身に関する相談が多い。個別性の高い相談のニーズに対応するため、助産師や栄養士などの専門職によるひろばでの定期相談日を設け対応した。養育者の悩みに応じた専門職の講座も継続し定期的を開催している。区の相談一言メモと法人発行のブックレットをひろばに設置。情報を手に取る養育者にスタッフが声をかけることが相談のきっかけにもなっている。
- ・いそご地域活動ホームいぶきの事業「いぶきっず(発達の気になる親子の交流の場)」を共催。ピアサポートを含めた相談の場となっている。
- ・親自身の育児不安や健康、人間関係等についての相談も多く、家庭・家族に関する相談もある。スタッフは相談者に寄り添い傾聴に努め不安や悩みを受け止めている。専門的な関係機関との連携や情報が必要な場合は、横浜子育てパートナーと協力し、より丁寧な個別対応を行った。
- ・制度・サービスに関する相談に対しては、スタッフがひろばに設置している情報を伝えている。子育てサポートシステムや利用者支援の持つ情報も丁寧に案内し、必要に応じて専門機関も紹介した。
- ・幼稚園、保育園等の就園についての相談に対しては、拠点ホームページの園情報や幼稚園情報ファイル(ひろばで収集した幼稚園児の養育者による園の現状のアンケート)を案内している。また、「～幼稚園園長先生のおはなし～教えて！幼稚園のこと」を開催し、養育者が直接園長先生に相談できる機会も提供した。
- ・ひろばの情報はカテゴリ別、年齢別に配架。地域もわかりやすく表記している。ひろばの情報の更新内容はスタッフと常に共有し、利用者への情報提供や相談対応に役立てている。

○スタッフの相談対応力のスキルアップ

・スタッフが講座や研修に参加し、「あかちゃん教室」や地域のひろば等に出向くことで養育者への情報提供がスムーズになりスキルアップ向上につながった。区の支援者向け「CARE講座」では子どものかかわり方について学び、ひろばでの対応にも活かしている。

・相談の相談傾向は定期的に分析し、スタッフ間で共有している。利用者支援事業と連携し相談内容に応じた各種専門家の相談へのつなぎ方、提供する情報の確認を行っている。

○福祉・医療機関である本法人の特色を活かした事業展開

・思い悩みつつもなかなか相談機関につながりにくかった養育者が、「地域子育て支援拠点」という気軽に利用できる場で専門家に相談できる機会を提供している。

・「いぶきっず@いそピヨ」内で南部地域療育センターによるミニ講座を開催。療育スタッフが同席することで参加者に専門家の相談の機会を提供した。

・南部地域療育センターと拠点での相談事業を検討。令和6年度からの「横浜市南部地域療育センターによる～発達が気になる親子の相談～」の開催につなげた。

・女性医師による専門相談「子育てのモヤモヤを吹き飛ばそう!!」を開催。専門家である児童精神科医が養育者の子育て中の悩みを受け止める機会を提供している。

○気軽な相談につながる工夫

・スタッフとの気軽な会話から相談につながることも多く、安心して会話できる雰囲気や関係づくりを心掛けている。

・外出に不安を持つ妊婦や養育者のニーズに応え、オンラインのひろばや講座を開催した

・個別相談や講座の開催方法に電話やオンライン方式を取り入れ、参加しやすい方法を自ら選べるように工夫した。

2. 相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。

○関係機関への連携と継続的フォロー

・相談の対応が難しく専門的な関係機関との連携や情報が必要な場合は、横浜子育てパートナーと協力し、より丁寧な個別対応を行った。

・相談内容に応じて適切な対応ができるように、区と随時連絡を取り合い、支援方法を検討している。

・相談内容によっては、適切な関係機関（区、病院、親と子のつどいの広場、児童家庭支援センター、基幹相談支援センター等）へつないでいる。関係機関と連携を行い、その後も養育者の継続的な支援を行っている。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①】

・拠点スタッフが養育者からの多様な相談に応えることができるよう、定例会を通して横浜市や磯子区の情報提供を行った。

・区の乳幼児健診についての研修やこどもとの関わり方を学ぶCAREプログラムの支援者向け講座を実施し、拠点スタッフのこどもへの関わり方について対応を学ぶ機会を設けた。

【目指す拠点の姿①②】

・継続して支援が必要な相談者については、随時担当者間で連携をとるほか、定例会で組織的に引継ぎを受ける機会を設けた。

【目指す拠点の姿②】

・こどもとの関わり方を学ぶCAREプログラムの養育者向け講座を拠点で開催とすることで、実際に参加した保護者の様子をみていただき、日頃のひろばや相談時にCARE講座を活用してもらえるようにした。

・運営法人である青い鳥の特色を生かした「いぶきっず@いそピヨ」、「横浜市南部地域療育センターによる～発達が気になる親子の相談～」開催の方向性について意見交換に参加し、区の事業について情報提供を行うとともに、既存の区の事業との役割分担について整理した。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

・多様な相談、配慮が必要な方への対応を行うことができた。

・相談内容の統計データを区と共有化し、子育て支援連絡会等の機会に地域関係者にも相談傾向を説明する等活用した。

・相談を受ける中で感じたニーズを分析し、事業につなげることができた（「おしえて！幼稚園のこと」等）。

・拠点スタッフが研修に参加したり、地域のひろばやあかちゃん教室等に出向いた経験が相談対応力の向上につながり、利用者を地域資源へつなげやすくなった。

【課題】

・拠点から距離があり、利用者が少ないエリアがあるため、オンラインの活用、既存のひろばに出向く等の、利用しやすい相談機会の提供に向けた検討を行う必要がある。

・相談対応について、今後も継続して拠点スタッフのスキルアップを図っていく。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	【振り返り作業からの課題】 ①情報が行き届いていない支援者、養育者を分析する必要がある。 ②拠点ニュースレターの目的に合わせた発信方法の検討をする。 ③養育者視点での情報収集・発信の工夫をする。 ④相談統計を活用し、さらに情報収集・提供の方法を検討する必要がある。 ⑤拠点情報やエリア情報を養育者に常時届けられる形にするための方法の検討をする。 ⑥情報収集と発信が、子の年齢が0~2歳児の拠点ひろば利用者中心となっている。子の年齢が3歳~未就学児をもつ養育者への情報収集・提供発信の検討が必要である。 【有識者からの追加の提言】 ①ニーズの高い一時保育・預かりの情報を、拠点ホームページでわかりやすく発信していく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

項目	H30年度	R5年度
子育て支援連絡会参加団体数	96団体	126団体
拠点ホームページ閲覧数	26,484件	39,253件
いそピヨニュースレター発行部数	4,200部	10,200部
インスタグラムフォロワー数 (R2年度開始)		1,085人 (R6.03.31現在)

令和5年度磯子区子育てニーズ調査

子育てに関する情報源(複数回答)	
1位 インターネット	85.3%
2位 親族や友人	55.3%
3位 SNS(インスタグラム・ツイッター)	44.4%
4位 保育園・幼稚園	18.9%
5位 区役所	11.1%
6位 いそピヨ	8.6%

●いそピヨニュースレター

発行回数：年6回(支援者向け報告号年1回)

配布先：拠点ひろば、子育て支援連絡会他関係機関、両親教室、乳幼児健診、あかちゃん教室、こんにちは赤ちゃん訪問員など

1. 区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。

○令和5年度、拠点ホームページをリニューアルし、区の「いそっこマップ」と連動したことで、利用者には情報が見やすく届きやすくなり、アクセス数が増加した。(令和4年/2.5万→令和5年/3.7万)また、関係機関へ施設情報やイベントの情報掲載を呼びかけた結果、依頼が増加し、よりたくさんの情報を養育者へ届けることにつながった。

- ・ニーズの高い一時保育・預かり情報が、拠点ホームページでの情報提供や市のホームページとのリンクとの連動によりわかりやすく手に入りやすくなった。
- ・メールでの相談予約が出来るようになったことで、相談を希望する養育者が気軽に申し込めるようになった。
- ・電話での対応が難しい外国籍の養育者に向けて、拠点利用やイベント申し込みをメールで出来るようにした。

○拠点情報を広く区民に届けるため、令和2年度にインスタグラムを開設した。タイムリーな拠点の状況やイベント情報やその様子、地域のイベント情報などを届けている。情報がタイムリーに届くため各種申込み等は養育者の反応が早くなり、フォロワー数も増加した。(令和4年/3月.505人→令和6年/6月.1159人)

○「いそピヨニュースレター」やイベントチラシ等の充実をはかり拠点の情報が広く伝わるよう工夫した。

- ・隔月で発行している「いそピヨニュースレター」の内容を、支援者向けから養育者も見やすいように変更することで拠点の情報を広く伝えることができた。
- ・「いそピヨニュースレター」や周知チラシを効果的に養育者に届けるため、区と共に配布計画を検討し、区の事業等での配布を依頼した。
- ・拠点から遠い地域の養育者への「いそピヨニュースレター」の届け方について、子育て支援連絡会の関係機関へ聞き取りを行った。必要部数や掲示の形状、配布の仕方について、養育者に届きやすく見直すことにつながった。
- ・拠点のイベントチラシや「いそピヨニュースレター」等に拠点ホームページとインスタグラムのQRコードを添付し、アクセスしやすくした。

○幼稚園児の養育者に園の現状の情報をアンケートし、「幼稚園情報ファイル」を作成した。随時更新し、就園に向け必要な養育者に活かした情報を提供することができた。また、幼稚園入園を考えている養育者向けに「おしえて！幼稚園のこと」を開催した。幼稚園での生活や入園手続きについて等集団に向けての講座の後、地区別の幼稚園の先生が参加し個別に情報を得る機会を設けた。

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

○相談傾向に合わせ、利用者が手にしやすいように拠点ひろば内の情報を地区別（色分け）やカテゴリーごとに整理、更新した。また、拠点スタッフ内で情報共有することで、養育者に必要な情報を伝えやすくなった。

- ・地域の子育てサークルに興味がある親子のため、情報を集約し拠点ひろばに掲示、配布している。
- ・区役所の相談一言メモや法人発行のブックレットを拠点ひろばに設置することで、養育者の子育ての悩み解消へのヒントとなっている。

○対面での事業が難しい時期をきっかけにオンラインを活用して養育者に情報発信することができた。

- ・「オンラインママの会」「発達障害の理解」「教育資金の話」「マタニティのための安産カフェ」等を開催した。
- ・拠点ホームページやInstagramを活用して「パパ講座」「金曜おはなし会」「親子でリトミック」「マタニティ・ヨガ」等の講師からの情報（絵本の紹介、手遊び動画、ストレッチ等）を配信した。

○令和5年度磯子区子育てニーズ調査を実施した結果、子どもとの関わり方（しかり方、しつけ方等）に悩む方の増加があり、養育者が子どもとの関わり方を学べるよう区とともに講座「CAREプログラム」を開催した。（再掲）

2. 子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。

○子育て支援連絡会にて関係機関に対し子育て情報の収集・提供の拠点であることを伝え、双方の事業周知が進むよう協力を得ている。

○集客に困る地域の施設イベントをひろばでの声かけや掲示、拠点ホームページやInstagramで周知の協力をすることで申し込み増加につながった。（幼稚園・社会教育コーナー・ケアプラザ・地域のサロン等）担い手との連携強化にもつながり、地域の養育者が情報を入手しやすくなった。

○令和5年度、拠点ホームページのリニューアル時に関係機関に広く施設情報やイベントの掲載依頼をした結果、参加機関が増加した。（幼稚園・ケアプラザ・地区センター・子育て支援者・地域のサロン等）

3. 拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。

○拠点ホームページの地域別カレンダーへ、関係機関から毎月タイムリーな地域情報を得ている。

○子育て支援連絡会のイベント「公園めぐり」の担い手の情報をもとに公園情報を集約した。「いそピヨニュースター」での発信や拠点ひろばでの掲示・配布で地域の遊び場を紹介することができた。

○関係機関から地図作成の協力を得ることで幼稚園・保育園の園庭開放、公園情報、サークルの位置、情報等を見やすく作成することができた。

○子育て支援者の協力を得て子育てサークルのリーフレットやチラシを作成、必要な養育者に紹介することができた。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①】

・拠点とともに子育て応援マップと連動する形に拠点ホームページのリニューアルを行った。

【目指す拠点の姿①②】

・子育て応援マップを出生全数に配布し、あらゆる機会に拠点や拠点のInstagramについて周知した。

【目指す拠点の姿②】

・子育て支援連絡会を通して、関係機関と相互に情報収集・提供を行い、連携強化を行った。

・拠点が関係機関の定例会に参加できるよう調整し、活用方法について案内した。

【目指す拠点の姿③】

・区と拠点で子育て支援連絡会の事務局を担うことで、拠点と地域の担い手が双方に情報収集・提供できるよう支援した。

・令和5年度磯子区子育てニーズ調査を実施し、SNSから情報を集める養育者が多いという結果から拠点ホームページやInstagramを活用するよう呼びかけた。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

・子育て支援マップと連動する形に拠点ホームページをリニューアルし、利用者に見やすい形で情報提供し、実際にアクセス数が増加した。

・ニーズの高い一時保育、預かり情報が、拠点ホームページでの情報提供や、市のホームページへのリンクを整理することで、以前より分かりやすくなった。

・Instagramを活用することで、気象警報による臨時休館や地域のイベント等の情報をタイムリーに届けられることができたとともに登録者数が増加した。利用者の声からも見られている実感が得られている。

・集客に困っている地域のイベントから拠点ホームページへの掲載依頼が増加し、担い手との連携強化につながった。

【課題】

・掲載情報にルビを振る等、外国籍の方等にも情報が伝わる工夫が必要。

・ダウン症や発達に不安がある方等の配慮が必要な児の養育者に向けた情報の掲載が不十分。

・子育て応援サイト「パマトコ」との連携の仕方について整理が必要。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	【振り返りでの課題】 ①子育て支援連絡会において、ネットワークの構築については地域により差がある。今後、養育者と支援者をつなぎ、地域課題を意識できるような仕組み作りが必要と考える。 ②地区別子育て支援連絡会で子育て支援情報を共有・集約しているが、「子育てフェスタ」の場では発信されないなど、情報が養育者まで行き届いていない地域がある。それぞれの地域のネットワークの進み方に合った情報の集約方法と情報発信の方法を検討していく。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	③子育て支援連絡会の中で拠点の事業を知ってもらい、双方向の情報共有を行っていく必要がある。 ④子育て支援連絡会などから親子の遊び場がないという課題があがっている。今後ネットワークを通じて課題解決について検討していく。 【有識者からの追加の提言】 ①支援のニーズを関係機関とともに把握し、地域の中で課題を解決していけるような取り組みを検討する。	B	B

評価の理由(法人)

【主なデータ】

子育て支援連絡会 参加団体 (個人含む)	
H30	51団体
R5	126団体

地区別子育て支援連絡会活動例 (R5年度)		参加親子
根岸・滝頭・岡村	連絡会 (1回 25名) 幼稚園、保育園での園庭遊び (4園4回)	51組 109人
磯子・汐見台・屏風ヶ浦	連絡会 (1回 30名) 地区内の施設・イベント見学実施 (2回) 地域ケアプラザの親子向けイベント協力 (1回)	13組 27人
杉田・上笹下	連絡会 (1回 28名) 公園遊び (1回)	6組 13人 保育園児 9人
洋光台	連絡会 (1回 26名) イベント情報をSNSで発信する際の共通画像作成 地区内の事業見学 (1回) 町内会館でのひろば開催 (10回)	49組 97人

1. 地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。

○区とともに「子育て支援連絡会」の事務局を担っている。

- ・区内4地区に分かれての地区別連絡会を開催し、関係機関が互いに顔の見える関係を作り、子育て情報の共有や地域ごとの活動に取り組んだ。コロナ禍において、それまで例年開催していた親子向けイベントの開催や、対面での連絡会の実施が難しい時期には、オンラインでの情報共有や地区別の「子育てマップ・カレンダー」の更新を行う事で連携を図った。
 - ・令和5年度には改めて区より認可保育園や幼稚園へ連絡会を案内し、また新たな機関へも声かけも行った結果、参加団体が増え、活動が活性化した。
 - ・関係機関がお互いの事業をSNSで周知する仕組みづくりや施設見学会など、地区ごとに独自の取り組みが進んでいる。
- 拠点から遠い地域での遊びの場の提供にもつながった。
- ・各年度の終わりには全体会を開催している。令和4年度は「子育てを取り組む課題」のグループワークで集まった意見や課題を資料にまとめ、令和5年度の地区別連絡会で同じ資料をもとに話し合い、取組みにつなげた。また全体会ではアンケートを実施し、会についてのニーズを把握した。

○「親と子のつどいの広場」との連携

- ・区とともに事務局となって「いそごひろば連絡会」を定期的(年4~6回)に開催し、区内6つの「親と子のつどいの広場」と連携を図っている。広場の現状をそれぞれ情報共有し、日頃の疑問や困り事について話し合う場になっている。
- ・区内の「親と子のつどいの広場」をまとめたリーフレットを作成し、養育者向けの周知に活用している。

○様々な社会資源との連携

- ・磯子区基幹相談支援センターいぶぎと連携し、発達が気になる親子のための「いぶぎっす@いそピヨ」を休館日に年4回開催。令和5年度からは南部地域療育センター職員によるミニ講座を開催。養育者にとって気軽に発達について相談できる場となっている。
- ・上記の会を通して南部地域療育センターと発達相談についてのニーズを把握し、拠点での相談事業につながった。
- ・いそご多文化共生ラウンジと協働して国際交流イベントを開催し、相互周知の機会を得た。また外国籍の保護者が子育てサポートシステムを利用する際にサポートを依頼し連携を図った。
- ・幼稚園協会磯子区支部と連携し、未就園児の保護者に向けた幼稚園について知ってもらう講座をひろばで開催した。
- ・拠点ホームページのリニューアルに際し、区内子育て支援関係機関の情報掲載を依頼することで、改めて各施設との連携を確認できた。
- ・利用者支援事業との連携により、子ども家庭支援センター「ゆいの木」や浜っ子南(フードパントリー)と協働での取組みの検討につながった。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

2. ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。

○子育て支援連絡会を通して各関係機関の事業を集約し、養育者に届けている。

- ・各地区ごとの施設や事業・サロンなどの情報をまとめた「子育てマップ・カレンダー」を作成・更新し、配布した。
- ・集約した情報をひろばで適宜周知し、拠点ホームページのエリア別カレンダーにも掲載している。また必要に応じてインスタグラムでも追加の周知をすることで、より効果的な情報提供ができています。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①②】

- ・区が主催する主任児童委員連絡会、保育園、幼稚園施設長会など関係機関の会議に拠点の職員が定例的に参加できるように調整し、関係機関との連携強化を図ることができた。
- ・拠点とともに子育て支援連絡会の開催内容を今後の取組につながるよう検討し、実施した。
- ・「磯子区子育てニーズ調査」の結果を踏まえ、地域課題を整理し、課題解決のための取組のアイデア出し等を行った。
- ・地区別子育て支援連絡会では、地域の課題解決に向けて話し合いを重ね、持続可能な取組（公園遊びや園庭解放参加イベントなど）をその地区の特性に合わせて実現することができた。

【目指す拠点の姿①】

- ・親と子のつどいの広場連絡会で出た意見をもとに、「乳幼児健診研修」「CAREプログラム支援者向け研修」などの研修を実施し、つどいの広場の運営スタッフに区の事業への理解を深めていただいた。この取組により、つどいの広場利用者への乳幼児健診フォローの後押しや、「CAREプログラム」の「親と子のつどいの広場」での開催につなげることができた。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

- ・子育て支援連絡会が地域の子育て支援関係者や機関との関係づくりにとどまらず、地域の課題解決に向けて検討する場となり、具体的な取組につなげることができた。
- ・「磯子区子育てニーズ調査」で明らかになった子育ての現状と課題を、関係機関と共有することができた。
- ・南部地域療育センターとの連携が強化されたことで、基幹相談支援センターと共に実施している、発達に気になるお子さんを持つ保護者の集まりの相談機能が強化された。また幼稚園との連携が強化されたことで、ニーズが高かった幼稚園の入園に向けた講座の開催につながった。

【課題】

- ・現状のネットワークで関わりが少ない機関に今後、どのようにアプローチしていくかを検討する。
- ・「磯子区子育てニーズ調査」等で明らかになった子育ての課題を地域で解決できるように、具体的な取組につなげていく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																																															
		法人	区																																														
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	【振り返り作業からの課題】 ①地域の子育て支援活動の活性化のために、拠点として何が出来るかを区とともに検討する。 ②「いそピヨ応援隊」募集のために、広く区民が参加できる研修会や講座の開催を検討していく。 ③子育て支援連絡会において、引き続き子育ての現状や課題を共有し、支援者から養育者への子育て資源の伝え方を検討していく。(「子育てフェスタ」、情報ツール等) ④子育て当事者となる市民の捉え方が区と拠点で違っていたため、今後子育て当事者とは誰かを話し合い、明確にしていく。 【有識者からの追加の提言】 ①地域の中で支援に関わる人が課題を解決していけるよう、ネットワークを活かした支援をすすめる。	A	A																																														
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B																																														
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A																																														
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B																																														
評価の理由(法人)																																																	
(主なデータ)																																																	
区民向け講座・講演会																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>いそピヨ応援隊</th> <th>H30年度</th> <th>R3年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会員数</td> <td>135人</td> <td>124人</td> <td>124人</td> </tr> <tr> <td>うち提供会員</td> <td>97人</td> <td>91人</td> <td>97人</td> </tr> <tr> <td>活動件数</td> <td>65件</td> <td>31件</td> <td>39件</td> </tr> <tr> <td>延べ参加人数</td> <td>206人</td> <td>72人</td> <td>131人</td> </tr> </tbody> </table> <p>R5年度受入れ人数(延べ人数)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>大学生・専門学校生実習</td> <td>3校</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>おもちゃ消毒</td> <td>20回</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>小・中学生ボランティア・職業体験</td> <td>4回</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>	いそピヨ応援隊	H30年度	R3年度	R5年度	会員数	135人	124人	124人	うち提供会員	97人	91人	97人	活動件数	65件	31件	39件	延べ参加人数	206人	72人	131人	大学生・専門学校生実習	3校	87人	おもちゃ消毒	20回	60人	小・中学生ボランティア・職業体験	4回	8人	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>講座名(内容)</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">R1</td> <td>孫育て・たまご(他孫)育て座談会 (工作などを交えた座談会)</td> <td>26人 (うち子ども6人)</td> </tr> <tr> <td>思春期を迎えるまでに知っておきたい3つのこと (区内の若者支援に携わる団体の講師による講座)</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>子どもの発達障害に寄り添う (南部地域療育センター職員による講座)</td> <td>18人 (うちオンライン9人)</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>地域とともにはぐくむ (昔遊びなどを交えた講座・座談会)</td> <td>20人 (うち子ども5人)</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>子どもと防災 (防災士による講座・おんぷ体験など)</td> <td>40人 (うち子ども18人)</td> </tr> </tbody> </table>				講座名(内容)	参加人数	R1	孫育て・たまご(他孫)育て座談会 (工作などを交えた座談会)	26人 (うち子ども6人)	思春期を迎えるまでに知っておきたい3つのこと (区内の若者支援に携わる団体の講師による講座)	25人	R2	子どもの発達障害に寄り添う (南部地域療育センター職員による講座)	18人 (うちオンライン9人)	R4	地域とともにはぐくむ (昔遊びなどを交えた講座・座談会)	20人 (うち子ども5人)	R5	子どもと防災 (防災士による講座・おんぷ体験など)	40人 (うち子ども18人)
いそピヨ応援隊	H30年度	R3年度	R5年度																																														
会員数	135人	124人	124人																																														
うち提供会員	97人	91人	97人																																														
活動件数	65件	31件	39件																																														
延べ参加人数	206人	72人	131人																																														
大学生・専門学校生実習	3校	87人																																															
おもちゃ消毒	20回	60人																																															
小・中学生ボランティア・職業体験	4回	8人																																															
	講座名(内容)	参加人数																																															
R1	孫育て・たまご(他孫)育て座談会 (工作などを交えた座談会)	26人 (うち子ども6人)																																															
	思春期を迎えるまでに知っておきたい3つのこと (区内の若者支援に携わる団体の講師による講座)	25人																																															
R2	子どもの発達障害に寄り添う (南部地域療育センター職員による講座)	18人 (うちオンライン9人)																																															
R4	地域とともにはぐくむ (昔遊びなどを交えた講座・座談会)	20人 (うち子ども5人)																																															
R5	子どもと防災 (防災士による講座・おんぷ体験など)	40人 (うち子ども18人)																																															

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

1. 地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。

○区内6つの親と子のつどいの広場との連絡会を定期開催（年4～6回）し、活動状況や課題などを共有し連携を図っている。利用者への対応についての課題に沿った研修を開催した。

・「対人援助の基本」「磯子区母子保健について」「乳幼児健診について」「CARE講座」「南部地域療育センター見学」

○子育てサークル交流会を年2回開催し、サークル同士の現状共有や情報交換をしている。

・活動場所の確保に悩むサークルの相談を受けて地域ケアプラザと連携した協力を行ったり、子育て支援者や地域ボランティア講師の協力を得て活動の支援を行っている。

・拠点ひろばでのサークル紹介（年2回）、「いそピヨニュースレター」や拠点のホームページ、Instagramでの発信、拠点のイベントとして見学者を募る「いそピヨ遠足」等、様々な方法でサークルを周知し参加者確保につなげた。子育て支援連絡会の地域イベントの中でも近隣のサークルが参加し周知を行うなど、ネットワークを活かした支援も行っている。

○子育て支援連絡会の地区別連絡会や全体会の話し合いの中で、コロナ禍での活動状況や支援の方法などを情報共有した。

○託児ボランティアいそピヨ応援隊（以下いそピヨ応援隊）へ子サポ提供会員向けの交流会や講座を案内し、一緒に参加してもらうことで子育て支援への理解を深めてもらっている。

○大型絵本やパラバルーン、エプロンシアターなどをサークルや地域のサロン等へ貸し出している。

○拠点のInstagramを活用して地域のサロン、サークル等の活動周知に協力している。

2. 養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。

○新規利用登録票に得意なことを記入する欄を設け、ボランティアとして依頼できるリストを作成した。イベントの講師やイベントでの先輩ママとしての参加、ひろばでの通訳などの声かけにつながった。拠点の10周年イベントでは利用者のスキルを活かして歌や楽器を披露する機会を設けた。

○子育てサポートシステム提供員の希望者へいそピヨ応援隊の登録をすすめている。短時間の託児の体験がモチベーションとなり、スムーズな会員登録につながっている。また、拠点ひろばでの預かりは、利用者にとって地域の中での子育て支援を身近に見る機会となっている。

○「背守り」を先輩ママや地域のボランティアと作成し、「いそピヨたまごクラス」で妊娠期の方へ応援メッセージを添えて配れるよう準備した。

○地域の方から頂いた折り紙をひろばに掲示したり、手芸作品を子どもの誕生日プレゼントとして渡している。

○「よこはまシニアボランティアポイント」の受け入れ施設登録を行い、いそピヨ応援隊をシニア世代へ周知したことで登録につながった。

3. 広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。

○地域の中で子育て家庭とのつながりの大切さや支援への理解が進むよう、広く区民に向けた講座や交流会を開催した。

「子どもと防災」は震災後の開催となったため関心が高く、自治会など地域のつながりの重要性を学ぶ機会にもなった。

○子育て支援連絡会での情報共有や話し合いが、地域で活動する支援者にとって子育て家庭への理解を深める場となっている。

4. これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。

○拠点利用を卒業した子ども達が、小・中学生ボランティアとしてひろばやイベントに参加し、親子とふれあっている。

○コロナで中断されていた中学校の職業体験受け入れを再開した。

○大学生・専門学校生の研修を受け入れ、学生が子どもと一緒に遊んだり、養育者と子育てについて対話することで、学び合う機会となっている。

○よこはま南部ユースプラザとの連携により、困難を抱える若者のボランティア活動として、拠点ひろばのおもちゃの消毒を定期的に依頼している。

○妊娠期に赤ちゃんのお世話を体験できる「いそピヨたまごクラス」を土曜日に開催することで、就業中の方やプレパパの参加が増えた。沐浴の練習や妊婦ジャケット体験、プレパパ・プレママ同士の話し合い等を通して、子育てについて考える機会となっている。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①】

- ・親と子のつどいの広場職員を対象とした「ひろば連絡会」では、「区の母子保健」「乳幼児健診」「CAREプログラム支援者向け研修」など親と子のつどいの広場や拠点のスタッフから要望のあったテーマで研修を実施した。「乳幼児健診」の研修では、支援者の理解が深まり、健診フォローの後押ししていただく等の関係がつけられた。「CAREプログラム」は拠点や親と子のつどいの広場での講座開催につながり、日頃の活動での養育者への支援や子どもとの関わりいただいている。
- ・「子育て支援連絡会」では、拠点とともに関係機関に情報提供を行い、連携強化を図ることで、地区の特性に合った共催イベントの開催等につなげた。
- ・子育て支援連絡会や、区が主催する主任児童委員定例会、保育園・幼稚園連絡会等などで拠点が説明する機会を調整した。拠点から子育て中の養育者に対しては、拠点のSNSを活用した周知が有効であることを説明し、関係機関開催事業の周知に拠点のSNSが活用され集客に困っていた団体の支援につながった。
- ・サークル交流会では、拠点と子育て支援者と共に企画を立て実施し、活動が低調なサークルについては、区と拠点で支援方針を合わせて話し合いに参加して活動を支援した。

【目指す拠点の姿②】

- ・赤ちゃん教室等で、地域の仲間づくりの大切さを養育者に伝えるようプログラムにも取り入れ、地域の資源を紹介した。
- ・拠点が作成したサークル一覧など区の掲示板に掲載した。

【目指す拠点の姿③】

- ・毎年秋に「広報よこはま磯子区版」で子育て特集を組み、地域で子育てを見守る雰囲気の醸成に取り組んでいる。

【目指す拠点の姿④】

- ・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」を実施し、養育者の現状や孤立感、育児ストレスに関連する要因を把握し、拠点と共有することで、これから子育て当事者になる妊娠期の方への拠点の事業内容に反映した。
- ・区内の小学校へ出向き、助産師と保健師による「いのちの授業」を実施し、若い世代への自らの命や周りの人の命を大事にすることを伝える、包括的性教育を実施した。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

- ・ひろば連絡会では近況を共有するだけでなく、広場スタッフの活動の困りごとを研修のテーマとして取り上げて実施し、広場スタッフの学びの機会をつくり、拠点や区との連携した事業の取組につなげることができた。
- ・拠点のSNSを活用し、地域の関係機関のイベント周知を支援した結果、イベントの利用者も増え、活動支援にもつながった。
- ・新規利用登録票に得意なことを記入する欄を設け、養育者が、ボランティアにつながるスキルを見える化し、声をかけやすくなった。日頃のひろばでも先輩として簡易な活動で参加できるように拠点スタッフが意識し、イベントなど養育者の活動につなげることができた。
- ・コロナ禍で、オープンサークルなどの活動ができなかったが、感染状況が落ち着いてからは子育て支援者とも協力し、子育てサークルの紹介を拠点のひろばで行うことができた。活動が低調なサークルは個別で支援した結果、活動継続につながっている。
- ・これから子育て当事者となる方をボランティアとして受け入れる機会がなくなっていたが、中学生の職業体験などを徐々に再開してきた。実習の受け入れは増加しており、区内の子育て支援の地域資源を知ってもらうきっかけになった。
- ・これから子育て当事者になる妊娠期の方に対して「プレママ・プレパパの会」を「いそピヨたまごクラス」と名称を変更し、父親が参加しやすい土曜開催にしたことで、多くの参加につながり、出産後の子育てのイメージ作りや情報を得る場となった。また、先輩ママにはボランティア活動のきっかけ作りの場となった。
- ・いそピヨ応援隊で活動する機会をつくり、そこから子育てサポートシステムを担う人材育成につなげることができた。持続的な人材確保、育成が行えている結果、コロナ前後でもいそピヨ応援隊の人数を維持できた。

【課題】

- ・共働き世帯の増加や子育て環境が変化する中で、子育てサークルやその他養育者の社会活動が活性化する様な支援を検討していく。
- ・養育者が持っているスキルを活かしたり、つながりづくりの中から生まれる助け合いや交流などを、さらに促進していく必要がある。
- ・引き続き子育て支援連絡会で現状や課題を共有しながら、地域ごとの特性に合った支援を検討する。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	【振り返り作業からの課題】 ①提供会員、両方会員とも会員数が横ばいで推移している。新規会員の獲得と、既存会員の継続について検討していく。 【有識者からの追加の提言】 ①子育てパートナーや区と情報を共有し、需要と供給をどうやって調整していくか検討する。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		B	A

評価の理由(法人)

会員数	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	事前打合せ件数・活動件数		H30年度	R5年度	
利用会員	606	678	628	629	662	720	事前打合せ件数(件)		132	289	
提供会員	114	110	104	100	97	117	活動件数(件)	全活動計	2,046	2,980	
両方会員	34	32	34	33	33	31		提供会員宅預かり	121	277	
合計	754	820	766	762	792	868		利用会員宅預かり	247	875	
入会説明会								開催回数(回)	保育園・幼稚園の送迎	635	860
拠点									園の送迎と前後の預かり	145	100
親と子のつどいの広場									小学校・学童の活動	502	17
地域ケアプラザ・他施設									習い事・塾の送迎	102	317
合計									拠点ひろば・つどいの広場預かり	212	476
集団・出張説明									その他の活動	82	58
個別説明									活動実人数(人)	118	207
合計								提供(両方)会員	58	73	

1. 子育てサポートシステムに多くの区民の参画が得られている。
 ○区民が子育てサポートシステム(以下:子サポ)の仕組みを理解し、必要に応じ活動できるように周知をした。
 (拠点アンケート「子育てサポートシステムを知っている」平成29年度76.6%⇒令和3年度80.2%)
 ・区の協力を受け、母子健康手帳交付時、両親教室、こんにちは赤ちゃん訪問、保育園、学童保育、キッズクラブ、小中学校保護者へのリーフレットやチラシを継続的に配布した。
 ・ホームページや区広報へ入会説明会の日程掲載をした。保育施設、関係機関へは入会説明会のチラシを配布した。
 ○妊娠期・乳幼児期・学齢期等、養育者のニーズに合わせて具体的にどんな利用が出来るのかを周知した。
 ○支援者が事業への理解を深め、養育者への案内に活かしてもらえよう、関係機関の定例会で事業説明や周知を行った。令和5年7月からは、利用料金改定や給付金制度、「子サポde預かりおためし券」(令和5年4月1日以降に生まれたお子さんに8時間分のおためし券の配布)が開始され、それも含めて理解を得られるように周知を行った。
 ・こんにちは赤ちゃん訪問員、子育て支援者、公・私立保育施設長会議、主任児童委員、民児協。
 ○「いそピヨニュースレター」に、子サポについての詳しい情報を掲載した。
 ○提供・両方会員獲得に向けて周知をし、提供会員の獲得につながった。
 ・令和2、令和3年度は新型コロナウイルス感染防止対策により予定者研修会の参加定員が半減し、事前に定員近い応募が想定されたため大々的な周知が行えなかった。
 ・令和5年7月に利用料金の値下げやおためし券の配布が始まり提供会員不足が危惧されたが、広報に特集記事を掲載し、入会説明会に参加後会員登録をして提供会員として活躍している方が倍増した。また、子どもとの関わりに興味関心はあるが、預かりに不安な方には、ひろばでイベントの託児をする「いそピヨ応援隊」の登録につなげ、短時間の預かりを経験していただくことで、スムーズな会員登録につながった。
 ・関係機関の定例会に出向き事業周知と共に、提供会員募集を呼びかけて会員登録につなげた。
 こんにちは赤ちゃん訪問員、主任児童委員、民児協、区民活動支援センター主催「私の魅力UP講座」。
 ・小中学校保護者向けにチラシの配布 ・近隣スーパーにチラシの掲示依頼をした。

2. 養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。
 ○拠点及び地域ケアプラザでの入会説明会を増やし、親と子のつどいの広場での入会説明会を開催し、養育者の身近な地域での開催をした。また状況に応じ個別や訪問説明も行っている。地域ケアプラザでは、入会説明会の前に各地域ケアプラザで開催される乳幼児向けイベントに出向き、事前に入会説明会のための周知を行ったところ満員となる会もあった。
 また、外国籍の養育者に対しては、いそご多文化共生ラウンジにて出張入会説明会を行い養育者のリフレッシュのためのひろば預かりに繋がった。
 ○緊急の活動依頼に対して、利用会員の状況を聞き取り、調整し、可能な範囲でコーディネートに努めた。

3. 会員が地域の支えあいの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。

○新型コロナ感染状況によっては、感染リスクや提供会員の負担を減らすよう、利用会員の理解を得て内容や頻度を調整しながらコーディネートした。事前打合せでは、マスク、消毒、換気などの感染対策を再確認した。また、緊急事態宣言発令に伴い「不要不急の活動を控える」という市からの方針が出た際には、活動中の会員に連絡を取り、不安や負担感なく活動が出来るように調整した。

○次回の活動依頼が確定した活動に関して、利用会員から区支部に活動依頼日を連絡するように伝え、会員の活動状況把握に努めている。またその連絡の際に合わせて活動内容や頻度などの再確認ができ、変更がある場合は追加の事前打合せを行うなど、会員が無理なく活動ができるようにきめ細かく対応し、提供会員の新たな活動のコーディネートの参考にしている。

○令和5年7月よりの利用料金の値下げや提供会員に対する給付金制度、おためし券の配布に伴い、提供・両方会員にとって手続きが複雑になったため、説明会の開催や活動報告書提出の際に丁寧な説明を行い、提供・両方会員が不安を抱かないように努めた。また、令和6年4月開始の横浜市子育て支援拠点サイト導入に伴っても、電子手続きに対して説明会を開催し、来所や電話にて丁寧な説明をし会員が混乱を招かないよう努めた。

○スキルアップのための講習会や会員同士で情報交換をしたり、リフレッシュのための交流会を開催した。

・虐待防止センター相談員による講座・緊急救命講座・工作を楽しみながらの会員交流会・絵本の読み聞かせ講座・セルフケア講座

・アンケートでスキルアップ研修会のテーマとして要望が多かった、発達障がいについての講座をオンラインで行った。個人でオンライン視聴が難しい会員のために拠点研修室でも配信した。

○「子サポ・応援隊通信」の中で、活動中の会員の声やアンケートによる活動の感想などを掲載し、「地域の中での支えあいの良さ」を会員や関係機関に向けて発信した。

○個人情報の管理が適切になされるよう、コーディネーターは法人の情報セキュリティ研修を毎年受講し、会員へも事前打合せの場や「子サポ・応援隊通信」を通じて注意喚起をしている。

4. 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援に繋げている。

○養育者からの活動依頼や問い合わせが、他の支援の入口になり得ることを常に意識して丁寧な聞き取りをしている。

・横浜子育てパートナーと連携し他機関の情報提供や相談につなげている。
・区と連絡を取り合って支援方法について検討している。

○養育者の状況に応じて、よりの確な対応が出来るようコーディネーターは他区支部の子サポと連携し情報交換している。また区の講座や法人の研修会に参加してスキルアップを心掛けている。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①②】

・提供会員の獲得については、広報よこはま磯子区版で子育てサポートシステムに関する特集ページを組み、提供会員の具体的な活動が伝わる写真を載せたり、提供会員、利用会員の声を反映させたりすることなど、より多くの市民の方に関心を向けてもらえるようにした。

【目指す拠点の姿②】

・母子健康手帳交付時、両親教室、家庭訪問、赤ちゃん教室、乳幼児健康診査、窓口など、様々な機会でも子育てサポートシステムの紹介を継続して行った。子サポdeあずかりおためし券（無料クーポン）や利用料金の改定等の新たな取組についても丁寧に紹介し、利用者の新規利用を促した。

【目指す拠点の姿①③】

・保健活動推進員、民生委員、主任児童委員の会議に拠点スタッフと一緒に出席して、子育てサポートシステムについて周知を行った。

・上記の取組から、実際に令和4年度から令和5年度にかけて20人の新規提供会員の増加、持続可能な制度運営につながった。

【目指す拠点の姿③④】

・配慮が必要な利用会員については、事務局や子育てパートナーと連絡を取り合い、安心して利用・活動できるように支援を行った。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

- ・広報よこはま磯子区版で事業の周知を行い、様々な地域の会議で提供会員について説明の機会を設けた。また、身近な場所での説明会の開催数を増やすことで、提供会員の会員数増加につなげることができた。
- ・提供会員、利用会員ともに自宅預かりに抵抗がある方もいるため、ひろば預かり（拠点での預かり）についても積極的に周知をした。また、ひろば預かりを行うことで、ひろばに遊びにきていた親子が実際の活動状況を見て、利用に対する不安が軽減し、新規の利用会員増加にもつなげることができた。
- ・提供会員に興味はあるが活動に不安を持つ方に関しては、“いそピヨ応援隊”（いそピヨで行われるイベント等の短時間託児）で託児の活動を体験していただく工夫をしている。
- ・提供会員に入会後も、研修の開催、いつでも相談できる体制をつくるなど、提供会員、利用会員ともに安心して活動できるようにフォローを行い、実際に活動件数の増加にもつなげることができた。
- ・配慮が必要な利用会員については、提供会員との丁寧なマッチングを行い、子育てパートナーや区職員が連携して、安心して利用・活動できるように支援している。

【課題】

- ・子サポdeあずかりおためし券（無料クーポン）の利用について、継続して幅広く周知していく。
- ・「磯子区子育てニーズ調査」の結果では、父親の「横浜子育てサポートシステム」の認知度が低いいため、父親に対する周知を工夫していく必要がある。
- ・今後も利用会員や依頼件数の増加が予測され、新規提供会員数を増やしていく必要があるため、既存の会議などの場を活用しながら、様々な世代の地域住民に子育てサポートシステムの周知を行っていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
① 拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	【振り返り作業からの課題】 ① 事業内容を養育者にわかりやすく伝える工夫を検討する。 ② 利用者支援事業を広く区民に知ってもらうための周知方法を検討していく必要がある。	B	B
② 相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	③ 相談内容の分析(相談動機や相談経路、相談内容、相談者の年齢や所属)をすることで、周知や情報の整理に活かしていく。 ④ 利用者支援事業の対象(年齢・相談内容)を振り返り、誰とネットワークを組めばよいか明確にしていく。	A	A
③ 子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	⑤ 地域の関係機関に利用者支援事業の役割を知ってもらう。 【有識者からの追加の提言】 ① より多くの関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っていく。 ② 養育者のニーズに応じて細やかな対応ができるよう地域の資源の把握に努める。	A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

個別相談の内容

	H30年度	R5年度
情報収集	5件	10件
周知活動	33件	31件
研修参加	16件	21件
出張相談	12件	13件
相談	273件	376件

	H30年度		R5年度	
1位	親自身	29%	親自身	32%
2位	子どもの生活	19%	子どもの生活	15%
3位	子どもの発育	10%	就園就学	12%

● 拠点内で交流タイムを担当するイベント
双子ちゃん・三つ子ちゃんの会、アラフォーママの会、プチママの会、
いぶきっす@いそピヨ、あかちゃんタイム、マタニティさんのための安産カフェ、いそピヨたまごクラス

● コロナ禍で開催したオンラインひろば
リモート子育てカフェ・マタニティさんのためのオンライン安産カフェ・オンラインあかちゃんひろば

関係機関との新たな連携、事業

	関係機関	事業内容(事業内容の詳細については本文参照)
R3	磯子区基幹相談支援センター	発達気がかりな未就学児と家族のつどいの場「いぶきっす@いそピヨ」共催開始。
	フードバンクはまっこ南	事業協力と出張相談を開始。
R4	専門職(助産師)	助産師との地域サロンへの出張訪問開始(R4/4件、R5/3件)
	横浜幼稚園協会磯子支部	区の保育教育コンシェルジュと区内全園見学。
	親と子のつどいのひろば	キッズスペースマカナ出張相談開始(R4/3件、R5/2件)、子育てスポットくすくす(ハッピータイム参加)
R5	南部地域療育センター	「いぶきっす@いそピヨ」にてミニ講座開催開始。 拠点内での発達相談事業検討(R6年度より開始)
	地域ケアプラザ	父親向け事業の協力としてママのおしゃべり会(杉田・磯子)、ママカフェ開催(洋光台)
	横浜幼稚園協会磯子支部	ひろばでの講座開催開始。幼稚園協会主催のイベントに参加。
	横浜マザーズハローワーク	従来の集団講座に加え、個別相談を開催。
	タウン症親子連絡会	拠点でのダウン症の保護者に向けて、拠点での保護者会、あかちゃん会を区と共催。
	児童家庭支援センター「ゆいの木」	情報交換と地域イベント検討(R6年度より開始)
	親と子のつどいのひろば	子育てキティ洋光台(ハッピーひろばでの事業協力)、親と子のひろばだっこ(あかちゃんタイム参加)、夢ひろば(あかちゃんタイム参加)

※R4年度より要保護児童対策地域協議会のエリア会議、R5年度より横浜南部児童相談所の里親懇談会に参加し情報交換を行っている。

1. 拠点における利用者支援事業(横浜子育てパートナー、以下「子育てパートナー」)が、区民や関係機関に広く認知されている。

○ 区の協力を得た関係機関への幅広く継続的な周知活動

- ・ 区の事業等で養育者に向けてチラシ配布を依頼した。乳幼児健康診査やあかちゃん教室に出向き、拠点や事業の周知を行い、ひろばの利用や相談につながった。
- ・ 関係機関の定例会で事業説明と周知の依頼をしている(公・私立保育施設長会議、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、子育て支援者定例会など)。

○ 拠点内での周知活動

- ・ 初来所者にはスタッフが丁寧に事業説明を行い、相談窓口としての子育てパートナーも案内している。ひろばの相談につながるイベント(データ化)で交流タイムを担当し、事業説明を行うことで、相談につながっている。
- ・ 「いそピヨニュースレター」や「子サボ・応援隊通信」で子育てパートナーの特集を組み、丁寧な事業周知や訪問予定を掲載した。気軽な利用につながるよう事業チラシとPRカードにホームページやInstagramのQRコードも添付した。

○ 気軽な相談につながる仕組みづくり

- ・ 親と子のつどいの広場やサロンへ訪問し、イベント参加や出張相談会を行った。事業説明や拠点の情報提供を行いひろばの利用や相談につながっている。
- ・ 拠点ホームページ上にワンクリックで相談予約ができる仕組みを作成し、気軽な利用につなげた。
- ・ コロナ禍で外出に不安を持つ妊婦や養育者のニーズに応え、オンラインひろばを開催した。(データ参照)

2. 相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。

○相談者の気持ちに寄り添い、傾聴し、丁寧な対応を心掛けている。情報の随時整理更新に努め、多様な相談内容に応じた情報提供やニーズに合わせた支援を行っている。相談内容では親自身が多く（32%）、傾聴についてなど各種研修に参加しスキルアップをはかった。

・相談内容に応じ、必要な場合は区と適宜連絡を取り合い支援方法を検討している。関係機関、他区拠点等とも連携し、それぞれの役割分担を検討しながら継続した支援を行っている。区の母子保健コーディネーターと連携を深め妊娠期からの支援を図っている。

3. 子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援にかかわる関係機関団体や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。

○関係機関との連携

・拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域のつながりの強化を幅広く継続的に行っている。顔の見える関係を大切にし、支援につながるネットワークの構築に努めた。コロナ禍の緊急事態宣言解除後には、休止した事業の再開に向けて、地域のひろばやサロンと情報交換を行い協力することができた。

・子育て支援連絡会やいそごひろば連絡会、子育て支援者定例会等に参加。子育て支援連絡会ではひろばの相談傾向についての報告を行い、拠点の把握する子育て家庭の現状を伝える機会となった。

・区内子育て支援施設に出向き事業の特徴を知ること、養育者の相談や情報提供に活かしている。

・「親と子のつどいの広場」では出張相談や父親向けイベントの協力を行なった。

・磯子区基幹相談支援センターが定期開催している「いぶきっず」を拠点で共催した。発達に気になる親子が気兼ねなく過ごせる場とピアサポートを含めた相談の場を提供することができた。令和5年度からは南部地域療育センターのミニ講座を開催し、専門家の相談の機会を提供した。南部地域療育センターと相談事業を検討し、令和6年度からの「発達相談」の共催につなげた。

・児童家庭支援センターと情報交換を行い、利用状況や相談傾向について意見交換を行った。令和6年度の地域支援イベント共催につながった。

・フードバンクはまっこ南で事業協力と出張相談を行った。ひとり親対象の新制度やイベント、学習支援などの情報提供につながった。

・地域ケアプラザ事業に協力し出張相談会や交流会を行った。専門職（助産師）との「出張相談会も開催した。

・区のダウン症親子連絡会で関係機関との情報交換を行った。拠点での「ダウン症児の保護者交流会」や「ダウン症あかちゃんの家」の開催につながった。

評価の理由(区)

【目指す拠点の姿①】

・拠点における利用者支援事業を養育者には、母子訪問、赤ちゃん教室、乳幼児健診、両親教室など様々な機会を捉えて周知した。また、赤ちゃん教室や両親教室では横浜子育てパートナーに教室で、直接、相談機能の周知の機会を作るなど調整した。

・より配慮が必要な方には、利用者支援事業につながるように、個別で支援した。

・各種関係機関の会議で定期的に横浜子育てパートナーに参加してもらう機会を持てるように調整した。

・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」を実施し、子育てパートナーの認知度について把握した。

【目指す拠点の姿②】

・区と運営法人との定例会で必要な情報を共有する時間を設けており、横浜子育てパートナーと連携して支援ができるようにしている。

【目指す拠点の姿③】

・子育て支援連絡会での地域の支援者が考える子育ての課題や、令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」の分析結果など横浜子育てパートナーと共有し、地域の課題の把握に努めた。

・区が把握した配慮の必要なケース（双胎やダウン症児など）の出生状況などを共有し、横浜子育てパートナーともに交流の機会について企画した。

・定例会等で、積極的に新しい地域資源の情報提供を行った。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

・継続的に横浜子育てパートナーの周知を行ったことで、関係機関の認知度が上がってきている。

・横浜子育てパートナーが様々な地域のひろばや養育者の集まりに向向いて、相談対応しながら事業の周知を行って認知に努めた。また、地域の資源の情報の把握がより一層進んだ。

・拠点ひろばへの来所が難しい養育者に向けてオンラインひろばを開催したり、地域の会場に向向くなど相談や参加者同士の交流を持つことができた。

・発達の心配がある養育者や双胎、ダウン症児の家族など配慮が必要な方の交流の機会の増設・新設を、関係機関とともに企画した。

・相談内容に応じて、区と子育てパートナーが適宜連携を取り合い、適切な支援方法を検討できた。

【課題】

・養育者の利用者支援事業の認知度が低い状態にあるため、今後も様々な機会を捉えて周知をしていく必要がある。

・関係機関と共に地域の特性に合った取組をネットワークの活動とあわせて推進していくことが必要である。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・定例会の中で、地区別子育て支援連絡会やイベントなどの課題について共有し、どのように事業を進めていくか検討することができた。
- ・重点目標や事業の目的、それぞれの役割を確認しながら事業計画を立てることができた。
- ・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」を実施し、課題とニーズを把握することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」の結果を踏まえて、区と拠点で地域の課題や偏りについて検討し、事業を計画する必要がある。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・定例会で事業の実施状況や参加者の様子を共有し、率直な意見交換をして適宜改善するよう努めた。
- ・ホームページの改定やInstagramの開設を通して、地区別の子育て情報の発信や、効果的な周知につながった。
- ・区と拠点が協働して事業の必要性について関係機関に呼びかけ、事業の周知や実施ができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・養育者の社会参加活動が活性化するような支援や仕掛けづくりについて検討していく必要がある。
- ・地域の関係機関・関係者に子育て支援連絡会等をとおして、子育てに関する地域の課題解決に向けた取り組みを検討し、強みを活かした活動や地域資源の創造をしていく必要がある。
- ・関係機関とともに拠点から遠い地域の支援の充実を目指し、取組を検討していく。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・シニアボランティアの活用において、区と拠点の認識の違いを確認することができた。
- ・コロナ禍においても感染対策の実施やオンラインでの開催など、開催方法の工夫をしながら事業を実施した。
- ・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」の結果から、利用者の傾向について分析を深めた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・ひろばの利用者に地域の偏りがあるため、出張ひろばや親と子のつどいのひろばをはじめたとした子育て支援機関との連携を検討していく必要がある。
- ・令和5年度「磯子区子育てニーズ調査」の結果を踏まえて、日曜日開催や父親が参加しやすいイベント、出張講座等の開催を検討していく。